

2 総合課題普及指導計画

基本計画シート

基本計画シート				分類		I－①、②、③ IV－①、②、③			
課題No.		総合課題－ 1		課題名		キュウリの産地維持と生産量の増加			
対象		J A高知県春野胡瓜部会				実施期間		平成 2 8 ～ 3 1 年	
課題設定の背景とねらい									
高知市（春野地区）の冬春キュウリの出荷量は全国第 3 位で、県内最大（県内出荷量 44％シェア・H29 園芸年度）のキュウリ産地（生産者 213 戸、栽培面積 49. 6ha、H30 年度）であり、10a 当たりの平均収量も高く、県内トップレベルの栽培技術を有している。 しかし、生産者の高齢化により栽培面積、生産戸数が年々減少している。H. 27 年の生産者への意向調査の結果では 5 年後の H. 32 年には栽培面積 47. 5ha、戸数 193 戸まで減少することが予想され、今後産地をどう維持していくかの検討が必要になっている。 これまで、新規就農希望者に対しては、関係機関で連携して就農相談から就農までの一貫した受入システムを構築し対応してきた。しかし、県内外の新規就農者の受入体制も強化され確保競争が激化してきており、今後は優秀な就農者の確保方法や研修内容の充実、農地やハウス、住宅情報の整理、就農後のフォローアップ等の受入体制の充実が重要である。また、栽培面積の維持には、規模拡大農家の育成も考えられるが、労働力不足が懸念される。H30 年に JA 無料職業紹介所が開設され、その有効活用が期待される。 栽培技術面では、ミナミキイロアザミウマが媒介する黄化えそ病の対策として天敵利用が進んできたが、年次や地域により天敵の定着、効果が不安定である。天敵は秋放飼だけでなく、春放飼を検討する。また、栽培終了時に化学的防除を実施して、JA 高知春野地域に生存するミナミキイロアザミウマの根絶を行う。さらに、施設内環境の見える化と炭酸ガス施用や日射比例灌水など環境制御技術の普及やその技術に応じた肥培管理の改善による増収技術の確立が求められている。									
対象の概要と問題点及びあるべき姿									
1 対象の概要・問題点									
園芸年度		25 年度	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	目標 (31 年度)	
生産量（t）		10, 560	10, 769	10, 174	8, 823	9, 850	11, 878	12, 695	
生産戸数		227	233	224	218	218	213	196（抑制 17）	
面積（ha）		54. 1	53. 2	51. 7	50. 4	50. 4 （促成 44. 5、抑制 5. 9）	49. 6 （促成 44. 8、抑制 4. 8）	48. 7 （促成 44. 0、抑制 4. 7）	
収量（kg／10a）		19, 505	20, 227	19, 690	17, 506	19, 517	20, 605	22, 000	
<問題点>									
・高齢化と新規就農者不足での栽培面積・生産戸数の減少による産地維持の困難化。 ・黄化えそ病等による生産量、品質の低下。									
2 目標年次の姿（目指すべき姿）									
・毎年意欲ある優秀な担い手が確保・育成され、産地の維持につながる。 ・JA 無料職業紹介所が順調に機能し、労働力が十分に確保される。 ・物理的、化学的及び生物的防除で地域のミナミキイロアザミウマを防除する。									

・環境制御技術等の新技術の確立と推進を行い、生産量の増加と品質の向上を図る。

普及事項	取り組み期間と到達目標					
	評価項目	実施前	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度
1 産地の維持	出荷量(t)	10,174	10,329 (8,823)	10,094 (9,850)	11,878 (10,210)	12,695
(1) 新規就農者の確保・育成	指導農業士数	9 名	11 名 (9 名)	11 名 (11 名)	15 名 (11 名)	17 名
	新規研修生数/年	2 名	2 名 (2 名)	2 名 (2 名)	3 名 (1 名)	4 名
	親元研修生数/年	—	—	2 名 (2 名)	2 名 (1 名)	2 名
	新規就農者数	延数 4 名	6 名 (6 名)	8 名 (8 名)	11 名 (10 名)	14 名
	開始型目標達成農家/年	—	—	5 戸/5 戸 (3 戸/5 戸)	9 戸/9 戸 (3 戸/9 戸)	11 戸/11 戸
(2) 規模拡大・経営発展農家の育成	労働力補完システムの構築・活用	—	体制案作成 (体制案作成)	体制検討 (体制検討)	体制構築 (体制構築)	活用農家 14 戸
	規模拡大農家戸数	—	—	1 戸 (1 戸)	4 戸 (7 戸)	11 戸
2 黄化えそ病対策	防除の省力・低コスト	—				50%省力 25%コスト減
(1) 物理的防除の徹底	①蒸し込み処理		(96%)	100% (96%)	100% (98%)	100%
	②促成抜き取り処理 (3 月末まで)		(56%)	70% (67%)	85% (89%)	100%
(2) 生物的防除の実施	天敵+微生物資材等利用戸数	—	実証 1 戸 (実証 1 戸)			
	天敵利用農家数	82 戸	95 戸 (84 戸)	90 戸 (54 戸)	95 戸 (45 戸)	100 戸
(3) 化学的防除の実施	キルパー処理の実施			2 ほ場	5 ほ場 (抑制 1 含) (10 ほ場、抑制 0)	12 ほ場 (抑制 2 含)
3 収量・品質向上対策	平均収量 (t/10a)	19.7	20.5 (17.5)	20.0 (19.5)	19.6 (20.6)	22.0
(1) 環境制御技術の推進	環境測定農家戸数	9 戸	15 戸 (23 戸)	68 戸 (29 戸)	75 戸 (39 戸)	80 戸
	炭酸ガス施用農家戸数	14 戸	20 戸 (22 戸)	68 戸 (28 戸)	75 戸 (51 戸)	80 戸
	炭酸ガス施用面積	287a	(512a)	1620a (743a)	1760a (1,126a)	1860a
(2) 環境制御技術に応じた施肥管理の改善	改善農家数	—	実態調査 (実態調査)	実証 1 戸 (1 戸)	5 戸 (19 戸)	20 戸
(3) 省力化 (カイゼン) 農家の育成						1 戸

年度シート その1

課題 No	総合課題－ 1	課題名	キュウリの産地維持と生産量の増加	
対象	J A 高知県春野胡瓜部会	担当・チーム員	○戸梶、小笠原、山崎、野中、桑尾、篠田	
〈これまでの進捗状況〉				
①産地維持に向けた新規就農者の確保・育成の取り組みを胡瓜部会の活動に位置づけ、就農者の募集活動や指導農業士等の受入農家による農家研修等、関係機関と連携した「産地提案型」の受入体制を整備し、担い手確保に取り組んでいる。また、29 年度農業次世代人材投資事業（経営開始型）交付の新規就農者に対してはサポートチームで連携して栽培指導・相談活動等の支援に取り組んだ。 規模拡大農家の育成では、建設業との連携による労働力補完を試行し、J A 無料職業紹介所の設置の必要性を明らかにし、平成 30 年 10 月 1 日に無料職業紹介所を開設した。 ②栽培技術面では、部会と J A とともに黄化えそ病根絶に向けた取り組みを行い、スワルスキーカブリダニとタバコカスミカメを組み合わせた天敵利用マニュアルを作成し、バンカーシート（スワルスキー）の使用方法的検討を行って天敵利用を推進した。また、J A と連携して炭酸ガス施用技術の研究会を立ち上げ勉強会等を開催した結果、炭酸ガス施用を含むハウス内の環境（温度、湿度）管理方法にも関心が高まり、収量 30t/10a 以上の生産者が増加した。				
〈対象の概要〉				
高知市春野地区は、県内最大（県内出荷量 44%シェア・H. 29 園芸年度）のキュウリ産地（生産者 213 戸、栽培面積 49. 6ha）である。				
〈現状の課題と問題点〉				
生産者の高齢化等により栽培面積、生産戸数が年々減少している。生産者の平均年齢は 60. 5 歳、60 歳以上の割合は 56%と高齢化が進んでいる。また、H. 27 年の意向調査の結果では、現在後継者が就農している生産者は 10 戸、近い将来後継者が就農予定は 8 戸と少ない。さらに、5 年後の H. 32 年には、戸数 193 戸、栽培面積 47. 5ha となることが予想され、今後産地維持が困難になってくる。 そこで、産地維持のためには、新規就農者の確保・育成や生産量の維持が重要である。また、生産量の増加や品質の向上のためには、物理的防除と化学防除（栽培終了時のキルパー処理）そして、生物的防除（天敵利用、バンカーシート）による黄化えそ病の根絶と、環境制御技術等の新しい増収技術の確立・普及と労働力の省力化の検討が必要である。				
〈あるべき姿と推進方向〉				
・意欲ある優秀な担い手を継続的に確保・育成し、産地の維持につなげる。 →募集活動や農家研修や就農後の経営安定に向けた支援の充実を図るとともに、就農施設（ハウス・農地）・移住環境（住宅等）の整備等に向けて関係部署と連携を強化する ・物理的防除と生物的防除（天敵利用）と、栽培終了時の化学的防除を行い、黄化えそ病の根絶を目指す。 →物理的防除と天敵利用を推進により I P M技術の確立と栽培終了時に化学的防除を実施して、JA 高知春野地域に生存するミナミキイロアザミウマの防除を行う。 ・生産量が増加して国内屈指の産地が維持される。 →環境制御技術等の新技術の確立と推進を行い、より収量、品質の向上を図る。				

普及事項	1 産地の維持 (全体) 出荷量の増加 (1) 新規就農者の確保、育成			(2) 規模拡大・経営発展農家の育成
	評価指標	現状	目標	評価指標 現状 目標
	(全体)出荷量 指導農業士数 新規研修生数 親元研修生数 新規就農者数(研修生) 開始型目標達成農家	10,210t 11 名 1 名 1 名 10 名 5 戸/9 戸	12,695t 17 名 4 名 2 名 14 名 11 戸/11 戸	労働力補完システムの構築・活用 規模拡大農家戸数 7 戸 活用農家 14 戸 11 戸
	担当	野中、小笠原、山崎、戸梶、桑尾、篠田		小笠原、山崎、野中、戸梶、桑尾、篠田
時期		計画		計画
第1 四半期	4 月 5 月 6 月	- 年間活動計画の作成（チーム会 4 月） - 研修生の就農に向けた支援（巡回、資金借入等支援 4～6 月） - 新規就農者の経営安定支援（サポ-トチーム会、巡回 4 月、経営分析 5～6 月） - 就農募集活動（移住相談会 6 月）		- JA 無料職業紹介所の利用状況把握（PT 会 4 月、聞き取り調査 5～6 月） - 対象農家の課題整理（データ収集・分析 5～6 月）
第2 四半期	7 月 8 月 9 月	- 意見交換会の検討（チーム会 7 月、意見交換会 7～8 月、チーム会反省会 9 月） - 就農募集活動（7～8 月） - 研修生への支援（面談・巡回 8～9 月） - 新規就農者の経営安定支援（就農状況報告会 7 月、訪問 8 月、基礎研修会 7～8 月、カウンセリング 7 月） - 先進地事例調査（9 月）		- 雇用に関する研修（キュウリ基礎研修 8 月） - 規模拡大・経営発展に向けた個別支援（カウンセリング 7 月）
第3 四半期	10 月 11 月 12 月	- 空きハウス調査支援（チーム会 10 月、情報共有 11～12 月） - 研修生の研修状況確認（巡回 10～12 月） - 新規就農者の就農状況確認（サポ-トチーム会 10 月、訪問 11 月）		- JA 無料職業紹介所へのヘルパー登録支援（PT 会 10 月、広報 11～12 月） - 規模拡大・経営発展に向けた個別支援（個別訪問 11～12 月）
第4 四半期	1 月 2 月 3 月	- 次年度の活動検討（チーム会 1～3 月） - 研修生の研修状況確認（巡回 2 月） - 研修希望者の面談（2～3 月） - 新規就農者の経営安定支援（面談・カウンセリング 2 月、訪問 2 月）		- JA 無料職業紹介所への農家登録支援（PT 会 1 月、広報 2～3 月） - 規模拡大・経営発展に向けた個別支援（データ収集・分析 2 月、カウンセリング

		2～3月)
課 題 名	キュウリの産地維持と生産量の増加	
対 象	J A高知県春野胡瓜部会	
関連事業名	普及指導活動強化促進事業、新規就農総合対策事業（高知県新規就農推進事業、農業次世代人材投資事業）、園芸用ハウス整備事業、園芸戦略推進事業、環境保全型農業推進事業、環境制御技術高度化事業、農業労働力確保対策事業	

連携する関係機関との役割

●推進方向の検討と役割

J A高知県春野営農経済センター、高知市春野地域振興課、高知市担い手育成総合支援協議会、J A高知県営農販売事業本部

●生産技術・担い手・経営関係課

題

J A高知県春野営農経済センター、高知市（春野地域振興課・農林水産課・農業委員会）、J A高知県営農販売事業本部、環境農業推進課、農業イノベーション推進課、農業担い手支援課、農業担い手育成センター、（公財）県農業公社、農業技術センター、（一社）高知県農業会議

